

令和4年4月4日臨時亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午後5時00分
閉会 午後5時23分

2 出席委員

神 先 宏 彰 教育長
北 村 真 也 教育長職務代理者
末 永 礼 子 委 員
出 藏 裕 子 委 員
福 嶋 百合子 委 員
陀 安 一 郎 委 員

3 欠席委員

秋 山 伸 夫 委 員

4 出席事務局職員

片 山 久仁彦 教育部長兼文化資料館長事務取扱
久 保 日出樹 次長兼総括指導主事
岡 田 康 宏 教育総務課長
内 藤 一 彦 学校教育課長
樋 口 竜 次 社会教育課長
山 崎 浩 久 社会教育課人権教育担当課長
岩 崎 盛 雄 歴史文化財課長
桂 和 裕 学校給食センター所長
谷 仁 志 図書館長
谷 口 正 二 みらい教育リサーチセンター所長
阿比留 綾 教育総務課副課長兼総務係長事務取扱

5 傍聴者

な し

6 議事の概要

(1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 教育長就任あいさつ

令和4年4月1日付けで任期満了となり、あらためて4月2日付けで教育長（2期目）に就任した。

○教育長あいさつ

任期2期目を迎え、委員の皆さま方の協力をいただきながら前に進んでいきたいと考えている。

1期目3年間の後半2年間は、紆余曲折はあったが新型コロナウイルス対策に取り組んできた。また、学校現場においても感染対策に取り組み、更に当初は5年計画であったGIGAスクール構想も、学校が3カ月間の臨時休校となったことを受け、急遽1年で進めることとなり、まだまだ課題もあるが、学校と家庭をつなげ学習保証もできる環境が整ってきた。

また、その間、学校や子どもたちも状況を冷静に受け止め、修学旅行などの行事が中止や規模縮小となるなか、前向きに進んできた子どもたちを見ると、今まで行ってきた亀岡の教育は間違っていなかったと感じているし、自信にもなっている。

委員の皆さまとは、新型コロナウイルス対策以外でも学校規模適正化にも取り組み、東輝・詳徳中学校ブロックをはじめ、別院中学校を南桑中学校へ編入することを決定、更に今取り組んでいる育親中学校ブロックについても、今後新しい学校を創っていこうということで進展もみられている。

更に、2年間教育委員の皆さまと様々な議論を交わし完成した第2次亀岡市教育振興基本計画も、先に開催された総合教育会議において市長から教育大綱として位置づけられた。この計画は、今後10年間の亀岡の教育を進めていく指針となるもので、教育委員の皆さまと作り上げたこの計画に誇りを持ち、着実に進めていけば間違いはないと思っている。

教育の流れは、昨今様々な進展が見られるが、学校として変えてはならない本質的なものを基盤に据えながらも、現在の新しい流れに乗って良いものは積極的に取り入れ、チャレンジしていかなければならないと考えている。

教育委員会事務局の朝礼でも話したことであるが「山上、山また山」という言葉がある。山の上に上がらなければ新しいものが見えない。高い山であればあるほど眼前に広がる美しい山が見られる。一旦麓に降りて策を練らなければならない時もあるが、そんな時には教育委員の皆さまと結び合い、共に亀岡の教育を発展させていけるよう全身全霊で頑張っていくので協力をお願いしたい。

(3) 教育長職務代理者について

新たな体制になり、あらためて北村真也委員を教育長職務代理者に指名した。

(4) 新たな体制となり、委員等から次の意見があった。

北村職務代理者 教育長も2期目を迎えられたが、自身は1期目を通して学校規模適正化の取り組みについて神経を尖らせて考えてきたし、長い歴史を持った学校を統合することになったということはたいへん大きなことである。また、教育は未来に向けてという教育長の熱い思いを受け、今までも委員みんなで考えていこうという姿勢で進めてきた。今後も委員の知恵を合わせて教育長のビジョンを具体化できるよう頑張りたい。

陀安委員 自身は昨年7月から委員に就任した。印象的なのは育親中学校ブロックの規模適正化について、各委員の意見を聞きながらも、教育長自身にビジョンがしっかりとあり、自信と気合いを感じた。何十年後までの未来を見据えて、今何ができるのか一緒に考えていきたい。

末永委員 これまでの取り組みを振り返ると、大きかったのは別院中学校の南桑中学校への編入決定や第2次亀岡市教育振興基本計画の策定である。いずれも一区切りついたように見えるが、実際はスタートである。別院中学校から南桑中学校への編入がスムーズに進むよう今年度の取り組みが大事になってくる。教育振興基本計画も作成がゴールではなく、今からが新たなスタートと捉えている。新型コロナウイルス対策をはじめ課題はあるが、子ども達や市民のために教育委員全員で力を合わせて頑張りたい。

出藏委員 東輝・詳徳中学校ブロックの学校規模適正化について、今までは兄弟、姉妹が違う学校に通学するという事例も見られたが、今年度から全児童が所定の学校に通学するようになった。また、この間、みらい教育リサーチセンターの設置や教育委員会の改革を通じて亀岡市の教育を活性化させたいとの教育長の思いも聞き、共に進んできた。また、小中高の学習指導要領も改訂され、探求学習も学校現場で取り入れられるなどの動きにも合わせて、子ども達の学びへの出会わせ方について考えることが教育委員会の責務と感じており、重要とも考えているので、令和4年度以降も取り組んでいきたい。

福嶋委員

別院中学校ブロックの学校規模適正化について、別院中学校の南桑中学校への編入のため、今年は大切な1年になる。また、育親中学校ブロックについても、住民や保護者が望んでいた形で方向性を示すことができたと思う。西部地域は児童・生徒の減少も進んでおり、今後に対する保護者の不安感も強いことから、園部高等学校附属中学校への進学を選択する方もあるが、今後、地元中学へ進学してもらえよう、その方向性を保護者全体に示していくことも重要である。

(5) その他

○オンラインで参加した全教育委員会委員について、亀岡市教育委員会会議規則に基づき出席したものとみなす。

(6) 閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上